



hina no marebito のまればと

る。生活実態調査で朝飯なしの生徒が3分の1。「脳にブドウ糖不足は勉強でけん」と提唱、「朝飯食うぞキャンペーン」を標榜し学校で朝食

「あんたしかおらん」。熊本県教育長から檄を飛ばされた47歳の大畑誠也は天草郡有明町(現・天草市)の天草東高校へ校長として赴任。町内から高校が消えることを憂慮した町長の陳情人事。大畑は満を持しての登板。「地域社会の信頼回復が決め手。一番大切なのは挨拶とコミュニケーション」と力説し、生徒に「大きな声で挨拶、返事、校歌」を打ち出し指導を徹底。「校歌は母校愛を育てる」と語る。さらに「1日1回図書館」。生徒達は図書館行きが習慣化し、新聞や小説を読むようになる。

挨拶とコミュニケーション伝道師

アンビー合志保育園園長
元熊本県立高等学校校長

大畑誠也氏 (72)



を準備。朝食の大切さは家庭にまで浸透。

卒業式後の「最後の授業」も圧巻。視聴覚室で保護者を椅子に座らせ、その隣で生徒が正座し目を瞑る。大畑が口を開く。「今まで、お父さんお母さんに色々心配をかけたろう。君達を高校へやるため、親は一所懸命働いて、金をたくさん使いなさった。心底から親に感謝する者は、隣のお父さんお母さんの手を握ってみろ。その手が18年間お前達を育ててきた手ぞ。お前達が産まれた頃は、柔らかい手だった。今、ゴツゴツした手をしとらす。お前達を育てるため大変な苦勞をしてこられた証ぞ。18年間を振り返り、親にほんなこつお世話になった、心から感謝したいと思う者は、今一度強く手を握れ。……よし目を開けろ。各所で嗚咽。親に感謝、親を大切にする授業、終わり。親も地域も「天草東は変わった」と喜び信頼回復。同校への受験者数は、大畑が着任以来2年で倍増、V字回復した。

次の菊池高校では「悪戦苦闘能力を身につけよう」を掲げ日本一の学校づくりに着手。

全国高等学校校長会で実践発表し大好評。熊本商業高校では全国商業高校の資格取得が全国4位に躍進。八代高校では「受験は団体戦である」と称して挨拶を推進、国立大学現役合格を106人からクラス減の中、1年目147人、2年目152人に増加。第一高校でも国立立大学合格者を増やす。盲学校では挨拶がほぼ100%、部活動のアンサンブル部が全国大会で金賞受賞。菊池高校から挨拶実施の集計を月ごと学級ごとにパーセントで表し輝かしい成果を挙げてきた。

大畑は定年退職後、九州ルーテル学院大学客員教授時代に講演活動を開始、昨春からアンビー合志保育園園長として「大きな声で挨拶・返事」を率先垂範。今後は「挨拶とコミュニケーション」で地域社会の人間関係を再構築したい」と意気込んでいる。

〈文中敬称略〉